

すまいるたうん



第238号

平成25年

1月13日

はいー東京新聞です 取材現場のつちやまき



一月一日、二日と出勤でした。

一月二日は朝刊をお休みさせていただき
ました。その前日、元旦は新聞社でも、
新聞をつくっていません。それでも、事
件事故の警戒や取材のため、本社には出
番の記者やデスクがいます。二〇一三年
の元旦は、私とそのデスク番にあたった
のです。「お正月なのに大変なんですねえ」
とよく言われますが、大みそかはゆつく
り家で過ごし、遅めの正月休みもとしま
したから、そうでもありませんよ。

元旦は、新年の東京スカイツリーを早
朝から取材していた若い記者から報告を
受けて、原稿をチェック。その記者を帰
宅させたあと、元旦付けの読売や朝日と
いった他社の新聞をチェックし、年末か
ら年始にかけて起きた事件や事故の確認
と原稿チェック、正月明けに掲載予定で、
事前に刷ってある特集ページのグラ刷り
チェックなどをこなしました。思ったよ
り仕事はありましたが、それでも大きな
事件や事故はなく、静かな一日でした。
仕事が一段落してから、泊まり勤務の若
い記者と少しお酒を飲みながら、今年
はどんな取材をするか、などと話してい
ました。

元旦の朝刊では、一面に、荒川区の隣、
北区にお住まいの日本文学研究者ドナルド
・キーンさんの「東京下町日記」が掲載さ
れました。昨年から月一回、寄稿してい
だいでいます。

この原稿は文化部という部署が担当して
いるので私は直接関係ありませんが、キ
ーンさんが昨年、日本国籍を取得したとき、
私は北区役所で取材しました。その際、キ
ーンさんから、できたばかりの日本語の名刺
をいただきました。名刺には漢字で「鬼怒
鳴門」と書かれていました。「きーん ど
なるど」と読みます。もちろん本当の名前
はカタカナ表記ですが、わざと漢字を当て
はめたのは、キーンさんのユーモア、そし
て日本への愛情の表れのようなです。

キーンさんは「これからは日本人として、
日本に対して言いたいことを堂々と言えま
す」とおっしゃっていました。この欄で書
かれることも含め、今後、キーンさんの発
言が楽しみです。

さて二〇一三年が始まりました。三月に
は東日本大震災・東京電力福島第一原発事
故から丸二年、夏には参議院議員選挙など、
いろいろな予定があります。

特に私が注目しているのは、六月か七月
にある、東京都議会議員選挙です。

国会では自民・公明が政権復帰、石原慎
太郎さんが変わって猪瀬直樹さんが知事に
就任してから、はじめての都議選です。ど

んな東京都政を進めてもらいたいのか、石原
前知事から後継者に指名されて当選した猪
瀬知事をどう評価するか、さらには自民、
公明両党の国政に何を望むかなど、いろい
ろな思いを託すことができる、とても意味
のある一票です。特に荒川区は定数2、他
の選挙区と比べて少ない議席を多くの候補
が争うことが多いので、今回も激戦区とし
て注目されるでしょう。

先日の新聞でも報道した、二〇二〇年五輪
を、東京で開催できるかどうか、九月七
日に決まります。

それから、ことしは天体観測の当たり年
だそうです。四月ごろ「パンスタース彗星」、
十二月ごろ「アイソン彗星」という彗星が、
いずれも太陽に近づくことで、日本の夜空
でも見える可能性があるそうです。どちら
も、今回見ることができなかつたら、もう
未来永劫、二度と見えることはないそう
です。貴重な機会ですね。

荒川区にはプラネタリウムがあります。
一般公開される「区民プラネタリウム」は
月に二回だけですが、この機会に足を運ん
でみてはいかがでしょう。

今年も、みなさまが読みたいこと、知
りたいことを、より多く紙面に載せていける
よう頑張りたいと思います。

(東京新聞 社会部 部次長
〔前・したまち支局長〕 榎本哲也)